

北海道浮魚ニュース

令和5(2023)年度16号

2023年9月29日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報発表される

9月29日、水産研究・教育機構より第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした漁期後半(10~12月)の予報です。

なお、この予報は国及び太平洋側道県の水産研究機関が参画し、水産研究・教育機構がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>)

「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」 (<http://abchan.fra.go.jp/>)

今後の見通し (2023年10月~12月)

対象魚種：スルメイカ

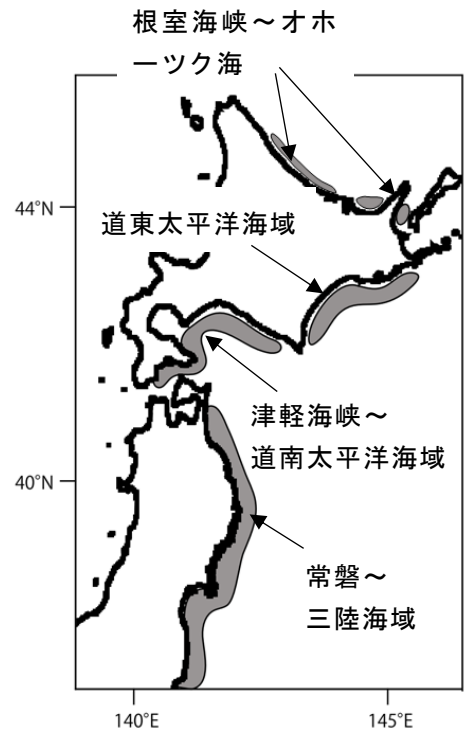
対象海域：太平洋(常磐~三陸海域、津軽海峡~道南太平洋海域、道東太平洋海域)

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群(2023年級群)

- ・道東太平洋(いか釣り、底びき網)：来遊量は前年を下回る。漁場形成は散発的となる。魚体は見通しを示せない。
- ・根室海峡~オホーツク海(いか釣り、定置網、底びき網)：来遊量は前年を下回る。漁期は前年と同様12月までとなる。魚体は見通しを示せない。
- ・津軽海峡~道南太平洋海域(いか釣り、定置網)：来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場が形成される。魚体は前年より小さい。
- ・常磐~三陸海域(いか釣り、底びき網、定置網、まき網)：来遊量は前年並。対象期間を通じて漁場が形成される。魚体は前年より小さい。

※文中の「前年」は2022年のことです。



・漁況は、8~9月に実施した太平洋漁場一斉調査(函館水試調査分は浮魚ニュース第12号参照)及び釧路水試による道東太平洋イカ類南下期資源調査(浮魚ニュース第13号参照)の結果と、各港の漁獲状況及び漁獲物の測定結果から予測されました。

・道東太平洋については、各港の漁獲状況は前年を下回っており、来遊量は前年を下回ると予測されました。根室海峡~オホーツク海については、北方四島周辺の水温は10月まで太平洋からオホーツク海への回遊に適した状態が続くと考えられるものの、釧路~羅臼周辺海域の漁獲量は前年を大きく下回ったまま推移しているため、この海域への来遊量は前年を下回ると予測されました。オホーツク海沿岸の10月の水温は前年並で、漁期は前年同様12月までとなると考えられます。道南太平洋については8月調査での分布密度及び主要港の漁況がいずれも前年を下回ったことから、来遊量は前年を下回ると予測されます。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL: 0154-23-6222、FAX: 0154-23-6225)